

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1.理念に基づく運営</b>				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	社会福祉への貢献 常に地域密着を基準として合理的かつ安心で良質なサービスを行うとともに、ひとりひとりの個性と能力を生かし、幸せな長寿を目指す。」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	H19年度の事業計画に基づいてスタッフ会議で検討し、毎日の申し送りの中で改善し、実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の中で説明を行い、理解を促している。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所の建物が3階にあるので、気軽に立ち寄る機会は少ないが、家庭菜園を通じ、ボランティア交流はあり職員は積極的に連絡を取り合っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設の来園者、利用者、ボランティア、老人会と交流が出来る様に努めている。		近隣の地域活動に参加する様に努力する(地域運動会、夏祭り 催事等)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>母体施設を中心に老人会、婦人会等の集会に参加し、働きかけを行っている。</p>		<p>グループホーム独自の働きかけを今後検討していく (地域との交流の場への参加を検討していく)</p>
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の評価を基に作成し、H19年度事業計画の中で人材育成やセンター方式の勉強会等に取り組む、暮らしの情報シートを作成中である。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>H19年度の運営推進会議の事業計画書に基づいて、サービスの取り組みや報告を行い、意見をもとに現状のサービス改善を行っている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業を進めていく中で、その都度連絡を取り行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>母体施設の会議の中でケアマネージャーの報告を受けたり資料回覧を行い、学習の機会を持っている。</p>		<p>今後においては、積極的に参加します。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>母体施設の園内研修に参加し、資料や指導を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては、ハローワークと連携を計り、募集要項においては確認を行っている。又、職員の自己実現においては個人の面談により配慮。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員のマナーチェック表で評価を行ったり、運営推進会議の中で職員の対応について、聞き取りを行い、向上につなげている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の能力に応じた研修参加は計画している。又、母体施設への園内研修参加、資料を回覧している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会への入会をする様に計画していたが、入会に至っていない。</p>		<p>グループホーム部会に入会する。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>交流や親睦の機会が、職員間に少ない。常に話を聞くことを心がけている。</p>		<p>職員同士が気軽に、話せる雰囲気作りを心がけたり親睦の機会を持ちたい。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>日々の業務の中でその都度、口頭により評価し、向上につなげている。</p>		<p>来年度、自己評価を作成する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入所事前に家族、事業所に訪問し、意見や要望を聞き、信頼関係に繋げる。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に担当ケアマネージャーを訪問し、意見や要望を聞き、信頼関係につなげている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>母体施設や各事業所と連絡を取り、検討している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談時に見学等を促し、事前に利用者がなじめる様な環境づくりを行い、その都度家族と相談し安心して過ごせる雰囲気を作っている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>グループ活動や日常生活の中で、経験、趣味等を生かし、発揮出来る様にし、共に過ごしながら支えあう関係を築いている。</p>	

グループホーム 愛らんど

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、お互いの役割において話し合いの中、築いていく。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	入所前の情報を共有し、利用者・家族のお互いの思いを理解、支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族との話し合いにより、外出や外泊の機会を設け、近隣コミュニケーションを計り、アルバム等を持参してもらい、記憶の呼び起こしを行い、なじみ関係を継続していく事を目的とする。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有場所の掃除、配膳、下膳、グループ活動時の協力により、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、本人・家族の状況を把握し、併設施設の事業所と連絡を取り合い、家族に情報を流す。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前、入所後の情報などを確認し、カンファレンスにより把握に努めている。又、困難な場合は、本人、家族、Drと十分な話し合いを行い、情報交換を行っている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族との情報、本人との会話、情報提供表、アセスメント表、診断書からの情報収集を行い、把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送りノートに継続的に記録し、総合的な把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日申し送り、その人の日々の暮らしが、どうであったのかを考えること、それを実行していくにはどうしたらいいかケアプランを基本としながらいろんな意見を取り入れ作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本は、3ヶ月に一回のモニタリングをするようにしていますが、日々変化する利用者に合わせて、対応できない場合は事前に関係者より情報をとり、臨機応変に見直している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りで、利用者の変化を話し合い、こういう風にしたらいいという意見は、出し合って計画に生かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所生活介護、共用型通所介護、入所により本人、家族の要望に対処している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設施設を中心に協力依頼を行っている。		今後においては、事業所独自に行っていく。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者と連携を図りながら支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在においては十分な連携が図れていない。		今後の事を考慮し、地域包括支援センターとの連携を検討する。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と常に相談し、受診の対応をしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的受診及び相談を行い、状態においては随時受診している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院及び併設事業所の看護職員を図り、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した病院のソーシャルワーカーを通し、常に情報交換しながら、早期退院に向けての働きかけを行っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応困難な状況が見られたら、家族、医師、併設施設担当者 と繰り返し、話し合いその後の方針を共有している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院の医師及び併設施設の担当者 とチームを組み、その後の対応を確認している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、医師、各関連機関等と十分話し合い、情報交換を行うと共に訪問や連絡を取りながら、本人の安心できる環境づくりに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけ、言葉使い等職員育成を行ったり その都度注意を行なったりしている。個人情報については漏洩がない様に職員から誓約書を記入してもらっている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>グループ活動やコミュニケーションを通して、働きかけを行っているがその人の流れに沿った生活を支援しています。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人の生活リズム、パターンを大切にし、自由に自分のペースで生活できる様に支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望を確認し、毎週木曜日の理容院を利用したり家族に馴染みの店に連れて行ってもらっている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養管理は、母体施設が行なっている。家庭菜園で収穫された野菜を使い、季節感や昔の味付けを思い出しながら、職員と一緒にやっている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>制限はなく自由に行っている。 手作りおやつは、希望や本を見ながら、その日の利用者の要望を取り入れ、作っている。</p>	

グループホーム 愛らんど

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導、チェック表を記録し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるように準備している。希望があれば、夜間入浴も実施している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後、心身を休めるよう声掛けや自室での会話等を行い、安心して入眠出来る様に支援している。又、日中の過ごし方の働きかけを行っている。(散歩・体操等)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	性格、生活歴、趣味等を把握し、グループ活動や日常生活の中で役割や楽しみを持ってもらうように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な人は本人が行っているが、使用機会が少ない。		グループ活動を通し、物品の選別や支払い等、金銭感覚の支援をもっと増やしていく。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と話し合い、外出の機会を持ったり 毎日の散歩希望時の買い物、ドライブ等に出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	外食、喫茶等計画し、月に1回は出掛けているが、家族と共に出かける機会は少ないが、相談しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、対応している。 手紙等必要に応じて、代筆の対応をしている。 年賀状、暑中見舞い等は出してもらう様に支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と一緒にお茶やおやつを食べてもらったり、必要があれば、場所の設定をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険動作のある方に対し動作の察知、見守り、介助により事故防止に努めている。 母体施設の身体拘束の園内研修に参加し、知識を高めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況(外出傾向)を申し送り、職員間で連携を図り付き添っている。又、併設施設の協力体制がある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時職員が1名、フロア内に折り、利用者の把握を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や保管方法は担当者を決め、明確にしているし、使用前後における確認を行なっている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急救命講習や緊急時のマニュアル、母体施設の協力により、勉強会、又1月に1回防災訓練に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習、緊急時のマニュアルを基に、訓練を行っているが、実践活動では、不十分な点がある。		毎月1回の訓練時間を設けて、職員全員が対応出来る様に指導していく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設との合同訓練参加。独自で毎月1回避難経路、誘導方法の訓練を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化があった場合は、その都度家族に説明し、対応を検討している。起こり得るリスクについては、契約時、家族等に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを記録し、変化時Dr.に報告、指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は個別に行っており、変更時は記録し、申し送り時に説明している。Dr.からの薬示書を個人記録に保管している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を記録したり、運動の支援、水分補給に努めているが、改善がない場合はDr.に報告し、指示を仰いでいる。1日1回乳製品をおやつに食べてもらっている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがい(塩水)の声かけ、誘導を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が管理している。摂取状況は記録し、その都度対応の検討をして支援している。 月1回の体重測定を行っている。 定期的な健康診断を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに基づき、行っている。 併設施設の園内研修に参加。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック項目や役割等を決めて、定期的に行っている。 (毎日、週間、月間にチェック表作成)		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安全面を優先したオープンな空間となっている。 つい立、観葉植物、飾り付けを工夫した。		玄関・周囲の工夫を検討する。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の3階ということから、外観や季節感を楽しんでもらっています。オープンな空間には、季節の花を飾ったりしています。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれるたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やつい立を使って、独りになれる空間を作っている。又、エレベーター前の長いすが利用者同士のコミュニケーションの場になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の慣れ親しんだものについては、家族と話し合い、協力してもらっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温を見ながら、空調の調整(チェック表で確認)、定時に窓の開閉をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてにおいては、バリアフリーである。 レベル低下者に対しては、見守り 付き添いを行いながら、個々の身体機能を生かし、併設施設のPT・OTの指導を受けながら支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、居室が分かる様に暖簾をつけている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	趣味や活動の場を提供し、ADL、QOLの維持・改善に努めている。(菜園で季節の野菜を収穫したり、ベランダで鉢植えを楽しんでいる。敷地内の公園等)		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム 愛らんど

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当園は、介護老人保健施設とクリニックが併設され、医療と連携を図りながら利用者の生活援助を行っております。具体的な活動としては、グループ活動（おやつ作り、漬物付け、家庭菜園、書き方等）、園外活動（ショッピング、外食会、ドライブ、屋外催事等）を行っております。また月に一度、同法人が所有している民家でサテライトケアを実施し、より在宅に近い雰囲気の中で残存能力の確認と新たな能力の発見に努めています。また個別には計算、大人のぬり絵、縫い物等を通し、知的レベル低下予防、レクリエーションでは、昔の遊びを取り入れ、回想法による記憶の呼び起こし、併設施設と合同でボランティアや近隣の小中学校の生徒との催事及び交流を楽しんでいます。問題行動を伴う利用者には、職員が共通認識し、改善に向けて、継続的な観察と取り組みを行っております。更に、問題行動が生活や本人の健康を害する場合は、家族と連携を密にし、専門医のアドバイスを基に、早期改善がなされ生活が営めるように取り組んでおります。常に共に生きる場として安らぎと安全を心がけています。